

人間ばん馬とクラフトのまち おけと



# 議会だより

No. 208

2023.11.1

■発行/置戸町議会

■編集/議会広報特別委員会



## 主な内容

- 定例会・臨時会 ……………2～3P
- 行政報告 ……………4P
- 一般質問(3議員) ……………5～9P
- 委員会の活動状況 ……………10P

デントコーン収穫風景

# 令和5年 9月定例会

令和5年第7回定例会は、9月13日から14日まで開催され、3議員の一般質問と、各会計の補正予算等を審議・可決し、閉会しました。

## 補正予算

の総額をそれぞれ3億682万4千円としました。

▽令和5年度置戸町一般会計補正予算

— 原案可決 —

歳入歳出予算を5192万2千円追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ48億2905万3千円としました。

▽令和5年度置戸町介護保険事業特別会計補正予算

— 原案可決 —

歳入歳出予算を1158万4千円追加し、歳入歳出予算

▽令和5年度置戸町簡易水道事業会計補正予算

— 原案可決 —

収益的収入及び支出の予定額を224万円減額し、収益的収入及び支出の予定額の総額をそれぞれ2億1415万1千円としました。

▽令和5年度置戸町下水道事業会計補正予算

— 原案可決 —

### ■一般会計主な補正内訳

(単位：千円)

主な補正内容	補正額	増減
置戸町住宅改修補助金	1,000	増額
高齢者等住宅改修費補助金	500	増額
野犬掃討・蜂駆除業務委託料	550	増額
麦・大豆生産技術向上事業補助金	13,900	増額
持続的畑作生産体系確立緊急支援事業補助金	15,136	増額
有害鳥獣収集運搬処理委託料	297	増額
生活応援商品券交付事業奨励金	13,500	増額
中堅青年海外派遣研修事業参加者補助金	250	増額

収益的収入及び支出の予定額を29万4千円追加し、収益的収入及び支出の予定額の総額をそれぞれ2億14万7千円としました。

## 認定

▽令和4年度歳入歳出決算の認定

— 一般会計外6特別会計

— 決算審査特別委員会付託 —

各会計とも、閉会中の継続審査として、決算審査特別委員会を設置し付託しました。

委員長 石井 伸二  
副委員長 石村 吉博  
委員 嘉藤 均  
委員 柏原 勝  
委員 山田 耕平  
委員 阿部 光久

お金のつかからない政治のために、寄付禁止のルールを守りましょう。

あげず、  
もらわず、  
もとめず。

## 決議案

▽事務検査に関する決議

— 原案可決 —

閉会中の決算審査として付託された令和4年度一般会計・各特別会計歳入歳出決算の審査に万全を期すため、決算審査特別委員会が町より関係書類の提出を求め、事務検査を行うことが出来るよう決議されました。

## 報告

▽令和4年度置戸町財政健全化及び経営健全化の比率について

— 報告済 —

令和4年度財政健全化及び経営健全化の比率について、監査委員からの審査意見書を付して報告がありました。意見書の内容は、特に是正改善を要する事項はない旨の審査報告でした。

▽例月出納検査の結果報告について

— 報告済 —

監査委員から令和5年5月31日、6月30日、7月31日現在までの出納検査について、検査の結果、現金の出納及び保管は適正に行われていると報告がありました。

## 専決処分

▽専決処分の報告について

—報告済—

著作物の無断使用に伴う損害賠償額について報告がありました。

・損害賠償額

47万8500円

## 同意

▽置戸町教育委員会委員の

任命について—原案同意—

令和5年9月30日付をもって任期満了となる教育委員会委員三好秀市氏（字置戸 51歳）の再任に同意しました。

## その他

▽北海道市町村職員退職手当

当組合規約の変更について

—原案可決—

▽財産の取得について

—原案可決—

じん芥収集車 1台

・契約金額 2002万円

・契約相手

東北北海道日野自動車株式会社

社北見支店

▽議員の派遣について

—原案決定—

・北網ブロック町村議会議員

研修会

令和5年11月15日 1日間

斜里町（全議員）

## 要望意見書

▽ゼロカーボン北海道の実現

に資する森林・林業・木材

産業施策の充実・強化を求

める要望意見書

▽軽油引取税の課税免除特例措置の継続を求める要望意見書

▽肥料、燃油などの生産資材

等高騰対策の強化を求める

要望意見書

▽国土強靱化に資する社会資

本整備等に関する要望意見書

議員から提出された4件の

要望意見書を審議の結果、

原案のとおり可決し、衆参議

院議長はじめ関係各大臣に提

出することになりました。

…お願い…

議長宛の案内など公的な文書は、必ず議会事務局にお届け願います。

## 一般質疑を掲載します

〜令和5年度一般会計補正予算より〜

**問** 過去のコロナに負けるな生活応援商品券の配布率と使用率は。

過去のコロナに負けるな生活応援商品券の配布率と使用率は。

**答** 簡易書留によりお送りをしていまして、配布が出来ず最終的に残ってしま

が出来る最終的に残ってしま

うのが5件ほどとなっており、配布率としましては99%となっておりです。また、使用率につきましては、令和4年度2回の実績ですが、1回目は98.49%、2回目は97.9%の使用率となっております。

補正予算について、審議・可決し閉会しました。

令和5年  
第6回  
臨時会  
7月20日開催

## 補正予算

▽令和5年度置戸町一般会

計補正予算 —原案可決—

歳入歳出予算を5558万

3千円追加し、歳入歳出予算

の総額をそれぞれ47億771

3万1千円としました。

## 専決処分

▽専決処分の報告について

—報告済—

電話空中ケーブル接触事故の損害賠償額について報告がありました。

・損害賠償額

1万8356円

# 町長からの行政報告

次のとおり町長から報告がありました。要約してお知らせします。

## 作況

9月1日現在の主要農作物の生育状況について報告いたします。

今年度は土壌凍結は平年並みでありましたが、春先は日差しが強くなり、気温が高く降水量が少なかつたため各作物とも植え付け作業は順調に進みました。5月から6月は一時降水量が少なく、干ばつ傾向になりましたが、その後は平年並みに推移し、平均気温、

日照時間ともに平年よりも多く推移したため、農作物全体の生育は順調に進みました。作物別の作況状況につきましては、秋まき小麦はウイルス病の小麦縮萎病の発生が多く見られましたが、6月下旬以降高温で推移したため概ね平年並みの収量となっております。

馬鈴薯は生育期間中の気温は高く、日照時間も平年を上回りましたが、5月の降水量が極めて少なく成長を阻害していましたが、7月中旬以降は

降雨により生育は回復傾向が見られ、全体的に大玉で玉数は少し少ない傾向にあります。が、平年並みの収量が見込まれています。

てん菜は雨不足により草丈は平年を下回りましたが、その後の降雨と気温も高く推移したため、生育は回復傾向に進みました。ですが、7月、8月の高温湿潤傾向により、褐斑病の発生が多くあり、ビートの糖度の低下が懸念されています。

たまねぎは5月の高温少雨の乾燥傾向により生育は停滞気味に推移しましたが、6月の適度な降雨により生育は平年並みに推移し、7月の高温多雨傾向により球肥大期は早まりました。肥大は平年よりも進んでいます。7月下旬から続く連日の真夏日により今後の肥大が見込めないことから、収量は平年並みか、やや下回る見込みとなっております。

その他の作物については平年並みの収量が見込まれます。

## 国・道の直轄事業

置戸町内における国及び道の直轄事業については、網走開発建設部外2事業所関係で合計19件、総額8億676万円が工事が進められています。事業費ベースで、前年度対比124.8%、1億6041万9千円の増額となっております。



▲たまねぎ畑を調査（作況調査）

区分	事業内訳	工事費(千円)
網走開発建設部	道路関係 6件	395,552
	河川関係 2件	19,385
オホーツク総合振興局 (網走建設管理部)	河川関係 1件	56,000
オホーツク総合振興局 (中部耕地出張所)	農業関係 10件	335,823



山田耕平議員

## 町のアウトドア事業の今後の取り組みは

**町長** 新しい観光スタイルを関係者ととともに模索していきたい

**Q** 本町は面積の約8割が森林に覆われている自然豊かな町です。しかし、私はせっかくの自然がほとんど生かされていないと考えます。平成20年から閉鎖している鹿ノ子ダムキャンプ場跡や現在休館している森林体験交流センターなど、自然を生かすために作られたものが生かされず、眠ってしまったり、何も使われていないというのが現状です。

そこで鹿ノ子ダム周辺だけではなく、南ヶ丘公園も含め、自然を活用できていない状況を町長としてどのように考え、また今後どのように置戸町の魅力を発信しながら活用していくのか伺います。

**A** いろんな観点から自然を生かしたアクティビティなど、アウトドアがブームとなっているのは承知しております。

これまで町が取り組んでいた観光振興の施策ですが、バブル景気のなかで鹿ノ子ダム周辺や勝山温泉ゆうゆ、森林

工芸館の充実により置戸への集客が大きくなる一方で、平成9年にバブルがはじけ、右肩上がりだった北海道経済にも大きな陰りが見え、平成13年以降三位一体改革や平成の大合併など、地方自治体は大きくその政策を転換せざるを得ない時代となりました。この頃から本町の観光振興も財源の枯渇とともに衰退していくこととなりました。また、平成28年には度重なる台風により、おけと湖周辺、湖畔広場も大きな被害を受け、再開が難しいと判断せざるを得ない状況となっております。

おけと湖及びその周辺の観光施設の充実を図りながら振興を図ってきましたが、町の財政のひっ迫などもあり、施設の老朽化、改修がままならない時代となり、一定の役割を終えたということで閉鎖や解体が進められてきたところ

です。現在は、勝山農村公園エリアを含めた勝山温泉ゆうゆの周辺も一定程度整備を終え、これからは勝山温泉ゆうゆを

核として、鹿ノ子ダムを含めた豊富な、そして美しい大自然をフィールドとした体験観光または本町の特産品の発掘、開発を中心に据え、観光振興策を進めることが有効だと考えております。

町といったし、まして観光振興には手を緩めず頑張っていきたいと思いますが、従来の大規模投資をして町が行う観光というのは今の時代難しいのではないかと判断しております。

北海道内ではアクティビティを中心とした観光開発がいたるところで開始されており、そのなかで、置戸の何が魅



▲おけと湖一周サイクリングFUNRIDE集合写真

力で集客につなげられるかというところも含めて、地域おこし協力隊、それから地域の方々、そして役場とともに新しい観光のスタイルを模索していきたいと考えております。



柏原 勝議員

## おけとワインの今後の方向性は

**町長** 専門家の意見も交えながらワイン以外の利活用方法も考えていきたい

これまで  
にぶどう作  
りにかけて  
きた経費に  
ついてです  
が、令和5  
年度だけで

ります。

**A** 本町におけるぶどう栽培は平成12年のピーク時には約18トンの収穫がありました。その後苗木の更新遅れや気候の変化などから収量が年々落ち、令和4年度の収量は337キログラムと1トンにも満たないような状況になってお

**Q** おけとワインという名前を使うことが難しくなり、さらにはふるさと納税の返礼品として使うこともできなくなったとお聞きしております。本町でのぶどう作りが試作されてから約40年、これまでにかけられた経費とその費用対効果をどのように判断されているのか。また今後をどのように考えているのか町長に伺います。



今後の方向性ですが、平成29年度から元北海道ワインの古川準三氏や国の研究機関である農研機構、道内の醸造用ぶどう生産者の皆様から指導や支援をいただきながら現在少しずつではありますが全体

560万円かかっております。そしてこれまでの設備投資を含めると統計は取っておりませんが2億円以上の経費をかけており、その間一度も赤字になったことはない認識しております。今ではふるさと納税の返礼品にはなりません。置戸の特産品の一つであることには違いがありません。そして、このワインは置戸町のイメージアップや宣伝に少なからず寄与していると思っております。

の収量も回復傾向となっております。また、地域おこし協力隊や食のアドバイザー、特産品生産グループの皆様の協力を得まして、本年度収穫のぶどうからいろいろ加工ができれば取り組んでいこうとしております。

**Q** 本年4月から補助している北見バスフリーパスチケットについて町民への周知が足りないと考えております。今現在の利用状況と各地区で販売推進はどのようになっているのか。また、北見バス路線外にはデマンドタクシーが早期に必要なと思いが、その協議の進捗状況はどの程度進んでいるのか。これから冬に向かい、町民の足を確保するためにも早急な対応が必要と考えますが町長の考えを伺います。

**町長** 利便性を上げる方法も考え検討が必要

### バス利用運賃補助事業の利用状況とデマンドタクシー計画の進捗状況は

採算は取れていませんし、町費の投入にも限界があります。一定の期間を経て判断をしなければいけない時が来るかもしれません。これまでができる限りのことをして栽培を続けてまいりたいと思いますのでご理解いただきたいと思っております。

北見バスフリーパスチケットの8月末までの販売実績といたしましては、総数272枚で地区別の内訳は置戸地区が253枚、勝山地区が19枚となっております。現在このチケットを購入できる場所は商工会、北見バスターミナル、北見バス営業所の3か所しかありませんが、10月1日より勝山、置戸、境野の各郵便局でも購入ができるよう協議が整いました。

また地域巡回バスについては、一昨年は2890人の利

用者でしたが、昨年の11月からアンケートを取り、路線を見直したり、便数を増やしたことにより、3922人の利用があり、約140%伸びています。しかし、便数を増やした分を考えると飛躍的に伸びたかと言われるとやはりまだ課題はあると思います。地域巡回バスにかかる経費は車両2台で1440万円ほどかかっております。これに加えてデマンドタクシーを運行するとなれば大変な費用負担と

なっております。地域巡回バスをデマンドタクシーに移行しながら利便性のよい方向へ進むのがいいのか、また今の地域巡回バスを通じてもつと利便性を上げる方法がいいのかまだ検討が必要であります。他町村でも地域巡回バスからデマンドタクシー型へ移行しているところも多くなつてきているため本町でもそれが可能かどうかも含めてこれから検討を進めてまいりたいと思います。

町職員としての意識を高めることについて

## 町長の考えは

**町長** さまざまな工夫をしながら職員のスキルアップを図ってまいりたい

**Q** 地方公務員とは、地方自治体に勤務し、社会の土台作りの仕事をする人です。挨拶は公務員に限らず、コミュニケーションの基本だと思えますが、町民の声として役場職員は挨拶がでないといふ言われております。また、職員間の地域行事への参加率が低いことや各種

団体への加入も少ないともお聞きします。本町は、イベントが多すぎると言われていることも事実であり、イベントへの参加を強制することも不可能だと思えます。しかし、職員一人ひとりが町職員としての意識を高めることについて町長はどのように考えているのか伺います。

**A**

役場職員の挨拶ができないというのは私が若い頃も言われていました。ですが、来客者への挨拶などは、私たちが若いころよりもよくできています。元気がなく、挨拶の音が小さい職員を見かけましたら、元気がないぞと声をかけていただければいいと思います。私は町長に就任してすぐ全職員と意見交換を行いました。そのなかで多くの職員がまちづくりに関して前向きで、また特に若い職員からはもっと活躍できる場が欲しいという意見もいただいております。私自身も今までの挨拶の声の小ささを改めて、職員の見本となるように努力してまいりたいと思います。

職員の行事への参加や各種団体への加入が少ないというお話ですが、役場の仕事以外に実行委員会方式で行う夏まつりや子ども七夕まつり、馬力だすべえ祭など私が若いときよりも多くの職員が参加し、運営の一助となっております。ある意味で最近の職員はまじめだなど思うぐらい声をかければ集まってくる。先日行われたサイクル駅伝への参加や盆踊りにも仮装に趣向を凝らして職員が一緒になって地域の皆様と盆踊りを踊ったということは本当につれしく思っております。

職員採用の際は必ず面談で役場の職員として仕事だけで

はなく、地域の行事や地域とのつながりがあって信頼を得るのでと、お話をすると理解していますと答える職員が多くいますし、そのような人を優先的に採用している事実もあります。私もさまざま工夫をしながら職員のスキルアップを図ってまいりたいと思います。

## 次期置戸町長選挙に向けて

**町長** 出処進退をしかるべき時に表明したい

**Q** 次期置戸町長選挙が来月に控えておりますが、深川町長が置戸町長に就任されてから新型コロナウイルス感染症対応などに翻弄されて早くも3年が過ぎ、残る任期も1年を切った今、達成できなかったことや残り残したこと、今後の置戸町を考えた時の優先課題についてどのように考えているのか伺います。

**A** 20年間町政の舵取りをした井上町長からバト

ンタッチをして3年3か月が経ちました。新型コロナウイルス感染症による手探りの予防対策や行動制限、マスクが当たり前の日常へと一変しました。この3年間ワクチン接種や地方創生臨時交付金を活用して、光ファイバー網の整備をはじめ、医療機関や福祉施設、公共施設のエアコン設置、勝山温泉ゆうゆのトレーラーハウスやラポラポイント導入など一気に進めることができました。また、ワクチン

接種や感染者受け入れで迅速な対応をいただいた日赤病院、職員一丸となりクラスタを乗り越え運営継続を図られた福祉施設など、その存在意義を十分に感じることができたとともに、小さな町だからこそ安心を確保できたのではないかと改めて職場や地域コミュニティの大切さを感じた3年間でもありました。

達成できたこと、やり残したこと、そして優先課題については、まず達成できたことはありません。反面やり残したことは多くあると答えざるを得ません。取り組んできて成果がでたことも新たな課題が発生し、さらによくするために次の取り組みが必要になります。勝山郵便局の存続を含めた移転やAコープおけと店の冷蔵庫の問題など、地域の皆様に相談をして、相手方に直談判をして解決策を見出した政策もあります。児童館整備も4年間では整備が叶いありませんでしたが、基

本構想のところまで進んでいきます。両老人ホームの大規模改修や役場庁舎の耐震化、老朽化対策と課題認識を持ち、令和6年度から始まる後期の第6次総合計画の見直しに向けて検討していかねければならないと認識しております。3年前の不幸のない社会を目指す。その手段は人づく

## 40周年を迎えたオケクラフト振興策は

### 教育長

記念事業の一つとして検証、今後について検討したい

**Q** 近年オケクラフト養成塾の入塾希望者がコンスタントに応募があるということをお聞きしております。

このことは少なくとも置戸町への移住者が増えることにもつながっており、これからも続けるべきと考えます。しかし、課題も多く山積していることも事実で、研修期間中の収入がないことや、その後のサポートはあるにしても十分な補償になっていないなどがあります。今後のオケクラフ

りだという思いは今も変わっていません。今は今年の4月に各課に提示した取り組み事項を一生懸命進めることが最優先と考えており、今後後援会の皆様とも相談をして自身で出処進退をしかるべき時に表明したいと考えております。

**A** オケクラフト作り手養成塾の状況ですが、この研修制度は平成23年度に開始し、応募資格は原則55歳以下の方で、町内に定住してクラフト生産に従事し、5年以上に町内に工房を開設する意思があることを要件としております。当初は、複数名の入塾者がいましたが、平成29年度以降入塾者が減って、令和

元年度、令和2年度連続して入塾者が1名という厳しい状況に至りました。その状況を受けて、令和3年度は募集を休止して制度の見直しを図っています。1つ目は、養成塾にかかる経費、講師料、原材料費、研修費などすべて町で負担をして、塾生に経費負担をさせないことです。2つ目は、募集方法についてであり、令和4年度から随時希望があれば受け入れることにし、そのおかげか入塾希望者は増加しています。

次に独立する際の現在利用できる支援制度としては、工房を開設する際の融資制度や工房を改修する際の補助制度、定住・起業する際の応援金、起業補助金があります。ここ数年では2名の作り手が支援制度を活用して工房を開設しており、卒業の際には住居及び工房として利用可能な家屋情報や必要機材の情報提供をしています。

今後の振興策と発展に向けての考えですが、町の特産品としてオケクラフトという

ブランドを未来永劫に続けていきたいと思えますし、そのためにも研修制度については各方面、また塾生の意見などを聞きながらさらなる充実を目指していきたいと考えています。また、現在オケクラフト40周年記念事業の一つとして、これまでのオケクラフトに関するハード面及びソフト面について検証し、将来を見据えた今後の計画なども検討しております。その結果を踏まえて一般社団法人おけと森林文化振興協会、そして作り手とともに今後のオケクラフトの振興と発展を考えていきたいと考えています。





石村吉博議員

## 今後の除排雪の方法の検討は

**町長** 現時点で有効な解決策はないが、検討課題として協議をしていきたい

**Q** 現在、町内大通り流雪溝設置箇所の降雪時の除排雪は各個人に委ねられています。深夜大通りに除雪車が入り、道路を削った硬雪を歩道側に寄せていきます。流雪溝沿いの方々は、深夜やまだ日が昇らない早朝から投雪作業をしており、高齢な方だけの家庭ではより大変な作業を強いられているのが現状です。子どもや高齢な方がいる家庭では早朝などに体調がすぐれず、病院に行ったり、緊急の場合は救急車を手配しなければならぬ場合も想定されるため、歩道の除雪時に歩道の切り下げの場所だけでも開けておくべきだと思います。また、空き家や空き店舗周辺では大きな雪山が視界を妨げ、子どもたちの登下校時などでも安全面で問題があると思います。今後ますます高齢化が進むなかで、町道などでも除排雪の方法を改めていかなければならないと思いますが町長の考えを伺います。

**A** 冬の北国の生活において、除雪はそこに暮らす人にとって大きな課題でありますし、宿命だとも思っています。本町の流雪溝は市街地の道道、町道を含めて総延長4.3キロメートル、平成11年より供用を開始して本年24年目を迎えています。当時は夢のインフラと言われ、街並み整備事業と合わせての一大プロジェクトとして、官民合わせて、186億円の一大事業となりました。その時と大きく変わったのは、開設当時は流雪溝利用者が210戸で始まっていますが、現在は137戸と、空き店舗や空き家が増えてきています。また、供用開始から24年経過しており、ですので、「当時は便利だね」と投雪をされていた方々も24歳年をとられて、作業が大変だとなってきたことも事実であります。

歩道の除雪や歩道の低くなっている場所、住宅や車庫への出入り口などを除雪してはどうかというお話ですが、やはり自宅の前は自分で管理す

ることを基本的に自助共助で対応を願わなければならないのが現実です。除排雪を請け負ってくれる業者も幹線道路や通学路などたくさん場所を除雪しなければなりませんので、そこまでの対応を現段階ですと難しいというところはお答えできないこともご理解いただきたいと思います。なお、空き家や空き店舗の雪山につきましては、2年前から除雪を町で対応している箇所もあ

ります。流雪溝の利用方法に限らず、除雪の課題は高齢化に伴い、将来にとって大きな課題となっております。

除雪業者もペレーター不足や高齢化により人員確保が難しくなるなか、有効な解決策は見つかっていません。議会議員の皆様や流雪溝利用協会の皆様とも情報を共有しながら、流雪溝の活用を続けていきたいと考えております。



▲役場庁舎前除雪中

# 委員会の

# 活動状況

令和5年7月中旬から  
令和5年10月中旬まで

## 総務常任委員会

【7月20日】

- ▽学校のクラブ活動の地域移行について
- ▽小中一貫教育の現状と成果及び今後の課題について
- ▽児童生徒の学力と体力及びスクールバスの利用について
- ▽現代のニーズに合った図書館づくりの検証について（デジタル資料の閲覧等）
- ▽図書購入における選書について

【8月22日】

- ▽特養・養護両老人ホームの老朽化の現状と建替え及び改築等の方向性について
- ▽特養・養護両老人ホームの

指定管理の状況について

- ▽町道の維持管理を含む直営事業及び事業組合の現状と今後の方向性について
- ▽境界地区水害対策の現状と進捗状況について
- ▽簡易水道の漏水状況と今後の対策について

【8月30日】

▽作況調査について

【9月26日】

▽町内行政調査

▽自治会の再編成と各地域自治会の取り組みについて

- ▽マイナンバーカード制度の現状（健康保険等の移行含む）と不具合発生時の対処について
- ▽オケクラフト40周年事業の進捗状況と周知方法について

▽一般社団法人おけと森林文化振興協会の経営状況と今後について（委託料の検証含む）

## 議会運営委員会

【7月20日】

▽第6回置戸町議会臨時会の

運営等について

- ▽議員協議会の開催依頼について（町長提案）

【9月6日】

▽第7回置戸町議会定例会の運営等について

【9月14日】

▽議員協議会の開催依頼について（町長提案）

## 議員協議会

【7月20日】

▽第6回置戸町議会臨時会の運営等について

- ▽児童館等建設基本構想検討状況について

【9月13日】

▽第7回置戸町議会定例会の運営等について

【9月14日】

▽児童館等建設基本構想案について

## 議会広報特別委員会

【9月29日】

▽議会広報第207号のクリニックと第208号の編集について

## 議会広報 研修会

北海道町村議会議長会主催の議会広報研修会が8月17日に札幌市で開催されました。全道から117町村、578名の広報委員が参加し、基調講演と、議会広報のクリニックが行われ、置戸町からも2名の議会広報特別委員が参加してきました。



## 編集後記

私は置戸町スキー連盟教育部事務局長であり、基礎スキー指導員でもあります。実はスキーでは9月末日が年度末、10月1日からの新年度になります。そんなわけで9月は置戸の指導者18名を全日本スキー連盟に新年度登録する作業の真最中、それに合わせて指導者研修会の申し込みやスキー保険の加入、そしてこれらの現金管理をしています。今年の夏は本当に暑い毎日で「このまま秋が来ないかも」と思いましたが、お盆を過ぎるとテレビCMではストーブやスタッドレスタイヤ・おせち料理の早期予約など冬の季節商品がいっぱい流れます。私にとつて冬がすぐそこを感じるのは23〜24のスキーシーズンが始まるせいなのでしょう。うか？それとも年のせいなのでしょう。うか？

（前田 篤）